



通算第36号

1964~65-2-10

函館北ロータリークラブ

第34回例会

例会場 明治生命館

例会日 毎週水曜日

1230-1330

本日のプログラム

スピーチ 伊藤日銀函館支店長(函館R.C.)

◆ 司会 新会長

◆ 斉唱 “手に手つないで。”

◆ ビジター 浜下改三君他13名(函館R.C.)

近江政太郎君他13名(函館東R.C.)

◆ 会長挨拶

1. 当クラブのチャーター・ナイトは5月23日に決定しました。本日の理事会で詳細について相談します。
2. ガバナーより富田特別代表に対し、当クラブの出席不良について御注意がありました。会員諸氏の努力をお願いします。
3. 3月第1例会日(3日)に次期理事の選挙を行います。定員7名で、うち3名の新理事を選挙し、残り4名は現在の理事(会長は理事として残留)から選ばれます。前の例会でもお話したが、重ねてお含みおき願いたい。
4. オーストラリアのバーラー・マッターR.C.から当クラブ宛に手紙が参りました。内容は、函館北クラブの誕生を祝い、今後友好を深めたいとのことです。
5. 太田会員、門田会員が夫々近く転任される予定です。

◆ チャーター・ナイト案内その他

1. 秋田港R.C. 5月16日に(申込3月5日迄)、名古屋守山R.C. 5月9日に(申込3月10日迄)、柏原R.C. 5月9日に(申込2月28日迄)、大町R.C. 5月23日に(申込2月28日迄)夫々チャーター・ナイト。

2. 札幌、南、東、西、幌南の5 R.C. は創立記念日にグランド・ホテルで合同例会を行います。

3. 深川 R.C. 2月16日の例会はスライド映写のためPM6.00より。

◆ ニコニコ箱

1. お誕生日おめでとございます。

西村秀則君(18日)

2. 奥様のお誕生日おめでとございます。(銀賞 今月から適用)

今宮信雄君 成沢善次郎君

3. 一作日の道新夕刊に、成沢会員と奥さんの写真が掲載されました。又お子さんが附属小学校に合格されました。何れもおめでとございます。(金賞二つ)

◆ 映画 “科学時報”

明日の世界を築く科学界のニュースが紹介される。先ず大気汚染の解決法として、スモッグの都ロスアンゼルスに於ける炭塵や煙を吸収する実験。エレクトロニクスの世界では、イギリスのダフニー・オラン女史が電子音楽で宇宙時代の序曲を奏でてくれる。更にカナダのモーターつきスキー、飛ぶプラットフォーム。ロケットベルトは、羽根なしで飛ぶ人間の夢を実現したものである。但し現在は飛行時間30秒、飛行距離400m。又超音波を用いて眼球内部を診断するカリフォルニア大学の実験や、猿を使つてのワシントン大学の感情の研究実験も興味あるものでした。

◆ 出席報告(前回分)

会員数29名 当日出席18名 他ク出席4名 計22名(75.86%)
参考:函ク 94.29% 函東ク 95.45%

御注意: 次回例会 2月23日(火) 於 五島軒

1. 次回の例会はロータリー創立記念日のため上記の如く変更になります。
2. 三クラブ合同例会のため、その週は函館市ではメーク・アップが出来ませんので御注意下さい。
3. 従つて次週出席不能の方は、明日(2月18日 函館クラブ 五島軒)メークアップして下さい。
4. 出張先でメーク・アップする予定の方は、札幌(5クラブ合同で、23日)の様に例会日変更の場合がありますので御注意下さい。



整備の必要にせまられて来た。熊本と予算争いの結果、今年は1億1千万円の予算がついたが、これでは用地買収費にすぎぬ。2000mの滑走路にジェット機を飛ばせるため、来年以降多額の予算をつけたいと願っている。

(3) 函館港は総予算33億円、5ヶ年計画で毎年経続しており、今年は1億円増額されたので、北防波堤の延長等が出来ることになる。

(4) 函館の都市計画事業も、新しい考えで推進しなければならぬ。本年も街路事業、区画整理、公園事業等に、総額4億円の都市計画費がついた。不振の西部地区も放置出来ないし、市内の地域バランス、近隣の関係も整えなければならぬと思う。

(5) 大野綜合灌排事業であるが、総予算62億円で推進中であり、本年は5億8千万円で、予定の42年までに発電、排水、暗渠等が計画通り出来そうである。

又今年から僅かであるが駒ヶ岳山麓開発の調査費がついたのも大いに意義がある。全体計画は30億円である。大野灌排が一段落する42年以降には、駒ヶ岳山麓の整地にとりかゝることになる。こうなると管内次々と開発事業が続いてゆくことになる。

(6) 函館市としてのこれからの観光事業は如何にあるべきか。市だけでは駄目で、広く地域全体を考えなければより以上の発展は望めない。渡島は勿論檜山とも提携して大観光圏を整備する必要がある。かくして多くの人に来て貰うこと、即ち観光開発に努力することが市の発展につながるのである。

(7) 企業誘致の問題として例の埋立地がある。市として若干問題が残っているが、今後真剣に然るべき企業を持つて来る様努力せねばならぬ。道も関心を持つているので、道にも協力を要請する努力を払うべきである。

(8) 最後に町村合併について申し上げる。現在の函館市では限界に来ていた。然し近郊の亀田町等は市のベッドタウンとして年々大幅に人口がふえている。実際には函館市は伸びていることになる。ただ土地がない、水がないと言うことである。市は当然、早晚亀田、上磯、銭亀沢等の合併をはからなければならぬ。昔の強制的な町村合併促進法はなくなつたが、今後はお互によく話し合い、確たる目標を立てて合併を研究すべきである。

結論: 何度もお話したことであるが、私は函館市は斜陽であるとは考えてい



通算第38号

1964~65-2-17

函館北ロータリークラブ

第35回例会

例会場 明治生命館

例会日 毎週水曜日

12.30~13.30

ない。色々な調査によつても、函館市は伸びていることがわかる。大きな力を持つているのに、それを結集する力に欠けているのが函館市の実態ではないかと思う。皆様方は道南の価値を再認識されて、前向きになつていただきたい。私共役所の力だけでは自づと限界があり、民間の皆様方、特に市のリーダーとしてのロータリー・クラブ、或はライオンズ・クラブ、商工会議所等の方々の大いなる御努力をお願いする次第です。

謝 辞 新 会 長

私共にとり心強い、有益なるお話で、明るい希望 --- ビジョンを強く抱くことが出来た次第です。どうも有難うございました。

お知らせ

(1) 富山南R.C. チャーター・ナイトを4月11日行います。申込は2月28日迄に。

(2) 『ロータリアン』誌週間(1月24日~1月30日)

1952年6月までは日本のロータリーは全国一区のガバナーの下に全国的な連絡が取れておつたが、同年7月から2区に分割され、全国的な見通しが出来なくなつたので、共通の雑誌を作ることに相談がまとまり、諸般の準備を整えて翌年1月から発刊された。現在の月刊誌「ロータリーの友」は、R.I.のRegional Magazineとして公認され、各区から選ばれた編集委員合議の下に、7名のスタッフがその編集事務に当つている。

(3) ロータリー創立週間(2月21日~2月27日)

ロータリー創立記念日(2月23日)

(4) 世界理解週間(3月14日~3月20日)

この週間に国際奉仕プログラムを一斉に実行するように世界中のロータリー・クラブに参加するならば、世界平和の促進に意義ある貢献ができます。このためには、多くの計画が必要でありますから、今がその準備にとりかゝる時機であります。国際ロータリーから送付される国際情報委員会資料は世界理解週間用の多様のプログラムを示唆しています。

出席報告

会員数29名 当日出席14名 他ク出席5名 計19名(65.52%)

次回(2月10日)のプログラム 映画(題未定)

本日のプログラム

1. 映 画 ロータリーの現況
2. 記念講演 伊部・ポスト・ガバナー

司 会 新 会 長 齊 唱 手に手つないで
ビジター 谷 義一君(森R.C.)

伊藤 善吉君他15名(函館R.C.)

渡辺熊四郎君他10名(函館東R.C.)

会長報告

1. ガバナー公式訪問は3月10日、チャーター・ナイトは5月9日と決定しました。又公式訪問についてのアツセンブリーを2月23日に行います。
2. R.I. 会長より『世界理解週間』に関しての書簡が参りました。(回覧)
3. アメリカカリフォルニア州のサンディゴ、ヘースリックビーチR.C. から、函館北クラブの誕生に対し親愛の意をこめた手紙が参りました。パーラー・マツターR.C. の時と同様、国際奉仕委員長より応答をお願いします。

幹事報告

1. 次の例会は23日(火)に合同例会となりますのでお間違いなきよう。
2. 入会の時いただくことになつていたロータリー奨学資金3600円をお払いこみ下さい。古い会員の方は250円のみです。
3. 2月23日午後6時より『館』に於いてクラブ・アツセンブリーを行いますので全員御出席下さい。議題はガバナー公式訪問にそなえてのものです。各委員会の上半期の実績と今後の計画表が必要ですので、未提出の委員長の方々は必ず当日迄に作製して御持参下さい。
4. 東城(広島県)R.C. 5月16日に、岡崎南R.C. 4月25日にチャーター・ナイトを行います。
5. 新入会員候補者発表 堀 数馬君 末続 吉間君(共に遠藤会員推薦)

スピーチ 最近の経済問題について、日銀函館支店長 伊藤善吉氏 ロンドンのフエナンシャル・タイムズ2月1日号に、ロンバート氏の昨年の各国経済状態の評価がのつていました。彼によると、

1. 昨年の『最優秀通過賞』はイタリアである。年間10億ドルの赤字を出していたのに、昨年は6億ドルの黒字であつた。イタリアは科学、刑法等に勝